

2-6

演題	オムツの在庫管理に携わってきて
副題	～業務改善と職員のモチベーションアップ～

コスト意識
排泄最適化

法人名	社会福祉法人 慶寿会
施設名	特別養護老人ホーム カトレアホーム

発表者名 (職種)	細川 清人 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	杉崎 希	住所	茅ヶ崎市下寺尾 1835-2
共同発表者		TEL	0467-52-8711
共同発表者		FAX	0467-52-8712
共同発表者		メールアドレス	kattleya_home@chigasaki.jp
共同発表者		URL	https://www.chigasaki-keijukai.com/katorea

今回の発表施設 またはサービスの 概要	カトレアホームは昭和54年に開設された定員50名(短期入所2名)の従来型特別養護老人ホームです。全室多床室の中で医療ニーズの高い利用者、認知症利用者を幅広く受け入れ、個別ケアの実践を行っている施設です。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

特養においてオムツ代は介護報酬に含まれている。そのためコスト(在庫)管理、意識が大切である。在庫管理で数字を追っていると、その数字から介護現場での排泄支援の悩みや課題が見えてくる。数字の分析を通じて見えた「排泄支援の質」向上の取組を報告する。

取り組んだ課題

排泄支援におけるQOLの向上を目指す取り組みとして「脱オムツ」がある一方、オムツ着用を必要とする利用者も存在するが、ここに着目する研究は意外と少ないと感じる。オムツ着用の理由は「排泄頻度・量の不確実性」にあると考えられ、「定時交換」を主体とした支援になっていると考えられる。施設、利用者双方にとっての利を考えると、使用方法の徹底やアイテムの絞り込み、そして何より排泄アセスメントを通じた「随時交換」への意識付けが必要だということに気が付いた。

具体的な取り組み

※オムツ業者に協力を依頼、(アイテム毎に)オムツ使用量をデータ化した。

- 1、コストの大きいアウトタータイプの使用量が多い
→当て方の技術が未成熟。業者による勉強会の実施。
- 2、適切なパットが選択されていない
→使用方法のルールに統一感がない。
職員のアイテム選別能力に個人差がある。
- 3、「大は小を兼ねる」の常識が非常識?
→夜間帯用の高吸収パットも使用方法が正しくなければ効果を発揮しない。

こうした課題に対応するため、職員にアンケートを実施、排泄支援について深く考えていただく機会を持つこと(意識改革)を図った。

活動の成果と評価

「排泄支援におけるQOL向上」とは何かを施設全体で考える良い機会になったと考える。

オムツ着用というイメージがQOLと結びつきづらいが、これを生活に不可欠なものとして使用している人にとって、より快適で、プライバシーが守られ、尊厳が守られる形で活用していけることが大切なのではないか？

私たち職員はそのために、使用方法や技術向上を考えていく、そのことがQOL向上への働きかけと云えるのではないかと。

今後の課題

今回の発表を通じて「排泄支援の質」の向上を考えていくと、在庫管理面だけでなく、支援全体に目を向けて行く必要があると感じた。その取り組みとして「随時交換」へのシフトは一つの手段として有効だとは認識しつつも、現場の現状から改善や理解を深めるにはまだ課題も多く残されている。この先も利用者へのサービス提供の質と現場の課題をすり合わせてこの活動を継続して行こうと考える。